

認定情報技術者(CITP) CPD 規程

2014年12月8日制定
2016年12月12日改訂

1. 目的

認定情報技術者（以下、CITP）は、クライアントの問題解決のために、日々進歩する情報技術（ICT）や社会情勢の変化に対応して自らの資質を高めるよう自己研鑽活動（CPD活動）を怠ってはならない。そのため、CITPがその資格を更新するためには、CPD活動の実績を要件としている。

認定情報技術者（CITP）CPD規程（以下、「本規程」という）では、そのCPD活動が有益かつ適正に行われることを担保するために、その内容と範囲を定める。情報処理学会（以下、「本会」という）は、本規程に従って個人認証における資格更新時にCITPのCPD活動を評価する。また、企業認定における「認定基準10」に示すCPDガイドラインとして本規程を参照する。

2. 用語の定義

本規程で使用する用語を定義する。

(1) CPD

CPD（Continuing Professional Development）は、技術者が自らの資質（技術力や応用能力）向上を目的として行う継続的活動の総称である。継続学習、継続研鑽、自己研鑽などと呼ばれる。

(2) CPD活動

CITPが、CPDの目的で行う継続的で自発的な活動である。CPD活動は、次に述べるCPDの範囲のいずれかに該当し、CPD区分および実施形態で識別される。

(3) CPD区分

CPD活動を、その目的と内容に則して次のように区分する。

- ① 能力を磨く活動：CITPとしてふさわしい資質を獲得し、基礎を固め、さらに深める活動。たとえば、講演会・講習会等の受講、シンポジウム・研修会・見学会などへの参加、自己学習などが含まれる。
- ② プロフェッショナル貢献活動
 - ②-1 業務上の成果を発信する活動：CITPとしての能力を発揮して得た成果を、知見として発表あるいは共有する活動。たとえば、論文発表、口頭発表、執筆活動、特許申請または取得、後進の指導、業務上の成果に対する表彰などが含まれ、所属する組織活動との関連が強い。
 - ②-2 社会貢献活動：CITPとしての能力を発揮して、社会に貢献する活動。たとえば、公的機関の委員、学協会・研究会の委員会、論文の査読、講演会講師、社会人教育の講師、大学等の非常勤講師、初中等教育における技術指導（理科教室）などが含まれ、所属する組織との直接的な関連が少ない。

(4) 実施形態

CPD活動を、実施形態によって分類する。以下に示す実施形態の詳細は付録1を参

照されたい。

- ① 集合研修（受講）（e-learning 形態を含む）
- ② 研究会発表（本会および関係学協会、民間団体等が主催する研究会、全国大会、FIT、社内技術発表会など）
- ③ 論文掲載（本会および関係学協会が発行する論文誌や技術誌等（本会の場合は、ジャーナル、トランザクション、デジタルプラクティス、研究会報告、会誌、DP レポート）、技術雑誌、公開される企業の技術ジャーナルや技報）
- ④ 著作（技術図書の著作、翻訳）
- ⑤ 研修会講師（学協会、大学、民間団体、企業が開催する研修会、社内研修会、後進の指導など）
- ⑥ 公的団体への貢献（公的機関の委員、標準の作成、裁判の技術鑑定、論文の査読、CITP などの審査員など）
- ⑦ 技術的成果（業務活動を通して上げた著しい成果（表彰、オープンソースソフトウェア）、特許、組織内での技術的成果の共有、組織内の技術審査、資格審査、公開される企業の技術ジャーナルや技報の査読など）
- ⑧ 自己学習（資格取得を含む）

付録 1 に示すように、実施形態と CPD 区分は典型的には対応するが、ポイントの算定においては、活動の目的と内容に照らして個別に判断してよい。

(5) CPD 時間と CPD ポイント

CPD 活動の計量単位として、便宜的に CPD 時間と CPD ポイントと呼ぶ測度を用いる。

CPD 時間は CPD 活動にかかる実時間に相当する測度であり、CPD ポイントは、その CPD 活動の内容の重さを加味した測度である。

CPD 活動の実施形態が集合研修である場合（区分は問わない）、参加時間数（ベース）に対し換算係数を 1 とする。すなわち、CPD 時間 1 を CPD ポイント 1 とする。

上記の条件を基準として、実施形態と内容を勘案し、付録 1 に示すとおり、CPD ポイントの換算係数（重み）を定める。

(6) CPD 実績

CITP が行ったすべての CPD 活動のうち記録されたものをいう。CPD 実績データは付録 2 に示す各項目から構成される。

(7) CPD プログラム

実施形態が集合研修の CPD 活動で、本会および関係学協会、セミナ企業、大学等が主催、共催、後援する講習会、シンポジウム、講演会、研修会、公開講座のほか、企業の社内セミナなどを CPD プログラムという。

(8) エビデンス

CPD 活動が適正に行われたことを表す資料をエビデンスという。

研究会発表、論文掲載、著作、技術的成果に対するエビデンスは、成果物そのものである。集合研修に対するエビデンスは、実施機関による受講証明書（付録 3）またはこれに準じるものを用いる。研修会講師の場合は開催案内などを、公的団体の委員活動については委嘱状、委員会名簿などを用いる。

機密などの理由により直接的なエビデンスを提示できない場合は、上長等による確認書類をエビデンスとして用いることもできる。

3. 認定情報技術者（CITP）の責務

CITP は、クライアントの期待に応えられるよう CPD 活動に努めなければならない。

3.1 資格更新時に必要な CPD 実績

CITP は、資格取得または資格更新後、次回の資格更新までの 3 年間に 150 ポイント以上の CPD 実績を積む必要がある。その各 1 年間で、30 ポイント以上の CPD 実績があることが望ましい。

加えて、CITP は、資格更新時点で、CPD 区分②（プロフェッショナル貢献活動）に属する CPD 実績を 50 ポイント以上獲得する必要がある。

3.2 CPD 活動の記録

CITP は自分の責任で、付録 2 に示す CPD 実績データを保存しておかなければならない。CPD 実績データの保管期間は、そのデータを用いて更新された資格の有効期限までとする。

3.3 資格更新時の CPD 実績データの提示

CITP は、資格更新を申請する際に、過去 3 年間の CPD 実績を提出しなければならない。CPD ポイントの算定の際には、CPD 活動の実施形態と内容によって重みをつけ、ベースの値から CPD ポイントに換算すること。活動内容ごとの重みを、付録 1 「CPD ポイントの算定表」に示す。

附則

本規程は 2015 年 4 月 1 日より施行する。

付録

付録1 CPD ポイントの算定表

表付-1 CPD 活動の実施形態別 CPD ポイントの重み

CPD 区分：①能力を磨く活動，②-1 業務上の成果を発信する活動，②-2 社会貢献活動

実施形態：①集合研修，②研究会発表，③論文掲載，④著作，⑤研修会講師，⑥公的団体への貢献，
⑦技術的成果，⑧自己学習（①～⑦以外）

CPD 区分	実施形態・活動内容	ベース	重み	上限	注
① 能力を磨く 活動	① 1-集合研修（テスト、演習等あり）	受講時間	2		A
	2-集合研修（テスト、演習等なし）		1		A, 1
	3-集合研修（見学会、ワークショップ、コミュニティ活動）	参加時間	1		
	⑧ 4-自己学習(資格取得)	件	20		3
	5-自己学習(エビデンスが合格証などの場合)	履修時間	1	20/年	
	6-自己学習(エビデンスが自分でまとめた学習成果資料の場合)	ページ数	1	10/年	
②-1 業務上の成 果を発信す る活動	② 7-研究会発表（登壇あり）	発表時間	10		B, 1
	8-研究会発表（ポスタ）		2		B
	③ 9-論文掲載（査読付き論文）	ページ	30		C, 2
	10-論文掲載（査読なし論文）		10		D, 1, 2
	④ 11-著作（技術図書（原著）刊行）	ページ	10		2
	12-著作（技術図書（翻訳）刊行）		5		2
	⑤ 13-研修会講師（社内；初回）	講演時間	3		
	14-研修会講師（社内；同一内容 2 回目以降）		2		
	15-研修会講師（メンター、後進の指導など；月単位）	人数×月	2		
	⑦ 16-技術的成果(社内外での著しい技術的成果；単独/ 共同)	件	20		E, 2
17-技術的成果(特許 発明者に限る；公開時)		10	20/年	2	
18-技術的成果(特許 発明者に限る；権利化時)		20		2	
19-技術的成果(組織内での技術的成果の共有；単独/ 共同)		10		2	
20-技術的成果(組織内の審査、査読)		5		F	
②-2 社会貢献活 動	⑤ 21-研修会講師（社外；初回）	講演時間	3		G
	22-研修会講師（社外；同一内容 2 回目以降）		2		G
	⑥ 23-公的団体への貢献(各種委員)	所要時間	3		H
	24-公的団体への貢献(国際、国内、業界標準の作成)		4		
	25-公的団体への貢献(裁判等での技術鑑定)		4		
	26-公的団体への貢献(JABEE 審査)		3		
	27-公的団体への貢献(論文などの査読)	件数	10		
	28-公的団体への貢献(CITP の審査 個人認証)	審査件数	6		
	29-公的団体への貢献(CITP の審査 企業認定)	所要時間	3		
	30-公的団体への貢献(初中等教育における技術指導)	所要時間	2		

注：

- A. 本会、関係学協会（学術団体、公益法人を含む）、大学、民間団体および企業が開催する研究発表会、研修会、講演会、講習会、シンポジウム、セミナー、公開講座等の聴講（e-learning 形態や通信教育を含む）。
 - B. 本会および関係学協会、民間団体等が主催する研究会 1、シンポジウム、全国大会、FIT、国際会議等での口頭発表。社内技術発表会での口頭発表。
 - C. 本会および関係学協会が発行する論文誌、技術誌等への査読付き論文（ジャーナル、トランザクション、デジタルプラクティス、国際会議、シンポジウム）。
 - D. 本会、関係学協会および企業が発行する出版物への査読なし論文（研究会報告、会誌、DP レポート、予稿、技術雑誌、公開される企業の技術ジャーナルや技報）。
 - E. 業務活動を通じて上げた社内外での著しい技術的成果（表彰、報道、オープンソース化されたなど外部から参照できること）。
 - F. 組織内の技術審査、資格審査、公開される企業の技術ジャーナルや技報の査読。
 - G. 本会、関係学協会、大学、民間団体および企業が開催する研修会、講習会、技術説明会、大学等の非常勤講師など。
 - H. 政府・自治体、独立行政法人等機関、学協会、業界団体などの審議会・研究会・委員会、WG 等の委員。
-
- 1. 研究会等で発表する場合、研究会報告書執筆で 10・論文掲載（査読なし）、発表で 7・研究会発表（登壇あり）、参加で 2・集合研修（テストなし）を、それぞれの活動のベースに応じて算定し、その結果を合算できる。
 - 2. 共著の論文掲載や特許、共同作業による技術的成果等に対しては、担当ページ数や作業に対する貢献度に応じて CPD ポイントを按分する。
 - 3. 情報技術に関する資格で、ITSS レベル 4 以上と判断されるものに限る。資格のレベル判定においては、スキル標準ユーザ協会の ISV マップを参照のこと。情報技術以外の資格取得に関しては、その他の自己学習として計上する。

付録2 CPD 実績データの項目

表付-2 CPD 実績データの項目

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 基本データ<ol style="list-style-type: none">1-1 氏名1-2 CITP 登録番号1-3 CITP 認定年月日2. CPD 活動の内容<ol style="list-style-type: none">2-1 CPD 区分2-2 実施形態2-3 概要2-4 実施日、場所2-5 計上日（登録日）2-6 ベース2-7 CPD ポイント2-8 具体的な内容（CPD プログラムの場合はその表示内容）2-9 エビデンスそのもの（あるいはそれがアクセスできる場所） |
|---|

付録3 受講証明書の例

CPD プログラム受講証明書

氏名： _____ 様

所属： _____

プログラム名			
開催場所			
開始日時	年 月 日 :	終了日時	年 月 日 :
行事内容			
実施形態			

上記行事に参加したことを証明します。

日時： _____ 年 月 日

主催者： _____

確認印 または 署名	
------------------	--

CPD ポイントの計算

CPD 区分	CPD 時間	時間	重み	CPD ポイント

注意事項

- CITP は、本様式に必要事項を記入の上、主催者による確認印を受けること。主催者による確認印は、運営担当者によるサインで代替できる。
- 複数日に渡る CPD プログラムの場合、1 日単位で受講証明書を用意すること。
- CITP は、本証明書および該当行事のプログラムをエビデンスとして保存すること。

CPD プログラム受講証明書（記入例）

氏名： 申請 太郎 様

所属： お茶の水情報システム株式会社

プログラム名	ソフトウェアジャパン2015		
開催場所	タワーホール船堀		
開始日時	2015年2月3日 9:30	終了日時	2015年2月3日 12:00
行事内容	IT フォーラム：高度 IT 人材育成フォーラム 「IT 人材育成に関わる様々な取組みと情報処理学会の貢献」		
実施形態	集合研修（受講）		

上記行事に参加したことを証明します。

日時： 2015年 2月 3日

主催者： 情報処理学会高度IT人材育成フォーラム

確認印
または
署名

人村 次郎

CPD ポイントの計算

CPD 区分	①	CPD 時間	2.5 時間	重み	1	CPD ポイント	2.5
--------	---	--------	--------	----	---	----------	-----

注意事項

- CITP は、本様式に必要事項を記入の上、主催者による確認印を受けること。主催者による確認印は、運営担当者によるサインで代替できる。
- 複数日に渡る CPD プログラムの場合、1日単位で受講証明書を用意すること。
- CITP は、本証明書および該当行事のプログラムをエビデンスとして保存すること。

CPD プログラム受講証明書の裏面に記載する依頼状の例

イベント主催者の方へ

CPD プログラム受講証明書に記載された者が貴イベント（プログラム）に参加（受講）したことを証明するためのサインをお願いいたします。

証明をお願いする目的

情報処理学会では、認定情報技術者（CITP）制度を実施しています。CITP に認定された技術者は、所定の CPD（Continuing Professional Development）活動を行うことが義務づけられています。CPD とは、セミナー、研究会、シンポジウムに参加すること等の研鑽活動を指します。

各 CITP は CPD を行ったことのエビデンスとして、CPD プログラム受講証明書が必要です。

上記趣旨をご理解いただき、証明書へのサインをお願いいたします。

一般社団法人 情報処理学会 資格制度運営委員会